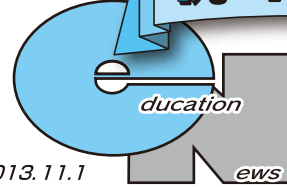


市教委だより

川越市教育委員会

祝・100号



2013.11.1

Kawagoe City Board of Education News



第7号（平成2年2月）
表紙「～市立博物館3月1日に開館～
川越の昔へタイムトラベル」



第36号（平成9年5月）
表紙「魅力ある学校をめざして」
（川越商業高等学校新校舎完成）



第57号（平成14年9月）
表紙「図書館へ行こう！」
（川越駅東口図書館開館）



第58号（平成14年12月）
表紙「川越市教育委員会
発足50周年記念特集号」



第75号（平成19年2月）
表紙「新しい校舎ができたよ！」
（月越小学校新校舎完成）



第84号（平成21年6月）
表紙「待つてたよ、仲よくしようね」
（古谷東小学校開校、古谷小学校と統合）

- ◆市教委だよりで振り返る教育委員会の歴史…… 2～3
- ◆写真で見る学校の今と昔・育英資金借り入れ申し込み案内…… 4
- ◆知っ得！文化財…… 5
- ◆教育相談Q & A・子どもが参加できる各種講座…… 6
- ◆子どもサポート委員会！…… 8

●100号発行にあたって●

皆さまのお力添えを頂き、今月号で100号を迎えることができました。これまで取材などのご協力を頂いた多くの皆さまに感謝します。今後とも、「市教委だより」をよろしく願います。



「あいさつ」

教育委員会委員長
梶川 牧子

本年四月一日、教育委員会委員長を拝命いたしました梶川牧子でございます。「市教委だより」百号発刊に際し、ご挨拶できますことを光栄に思っております。

本紙は、川越市の教育行政の現状や今後の方針をお知らせするという大変意義のある広報紙ですが、今後とも、本紙が市民の皆様との懸け橋として活用されることを願っております。

さて、この度の七年後のオリンピック、パラリンピックの東京招致というニュースは、子どもたちの世界に明るい希望をもたらしたことと思います。しかし、一方では、東日本大震災の復興もままならず、相変わらず多くの子どもたちが、故郷を遠く離れたり、仮設住宅での生活を余儀なくされていることも現実です。川越の子どもたちが、そのような困難に立ち向かう仲間たちに思いを馳せることができる「心の教育」こそが大切であると信じ、その実現に努力してまいりたいと思います。

家庭と学校、地域、そして行政とが一体となって、二度とない子ども時代を健やかに、そして生き生きと過ごすことができますよう、皆さまのご協力とご理解を心からお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

おかげさまで100号



市教委だよりで振り返る教育委員会の歴史



創刊号（昭和63年7月）

発刊当初の市教委だよりは、B5版2色刷りの年4回発行でした。表紙の「発刊にあたって」のことは、当時の村田和男教育長が「本紙を通じて情報の提供にためながら、二十一世紀を指向した、よりよい川越市の教育の創造に意をつくしてまいります」と述べています。



教育委員会の主な出来事

- 昭和63年7月 教育広報「市教委だより」を創刊
- 平成元年5月 川鶴公民館開館
- 平成2年3月 教委事務局を組織改正し、管理部・指導部からなる2部5課12係体制となる
- 平成3年10月 博物館開館
- 平成4年9月 北公民館開館
- 平成5年4月 学校週5日制実施（月1回）
- 平成6年4月 第一現今成学校給食センター改築終了
- 6月 指導部に文化財保護課を新設
- 8月 2部6課15係体制となる
- 8月 市教委だよりがB5版からA4版サイズへ変更
- 平成7年4月 芳野学童保育室（芳野小学校内）開室
- 平成9年2月 これにより、全小学校区に学童保育室設置完了
- 平成9年2月 学校週5日制実施（月2回）
- 平成11年4月 小堤商業高等学校新校舎完成
- 平成11年4月 小堤集会所改築開館
- 平成11年4月 教委事務局を組織改正し、生涯学習部・学校教育部からなる2部7課17係となる
- 平成12年4月 教育総合相談センター（リベラ）開設
- 平成13年4月 12月 市教委だより50号発行
- 平成13年4月 さわやか活動館開館
- 平成14年4月 生涯学習部に国体推進室を新設
- 平成14年4月 完全学校週5日制・新学習指導要領

教育委員会の情報を伝えて25年

市教委だよりが昭和63年7月1日に創刊されて以来、25年の歳月を経て、今月号で100号を迎えました。これを記念して、市教委だよりが誕生してから今までの教育委員会の歴史を、市教委だよりの紙面とともに振り返ります。

市教委だよりが創刊されたきっかけ

創刊する以前は、主に市広報に教育関係の記事を掲載していましたが、市広報は、市全体の情報紙であるため、行事・講座案内を除き、教育に関する記事（主に企画特集等）の掲載機会が少ないのが現状でした。

そこで、教育に対する重要性和関心が高まりつつある中、川越市の教育の現状や取組等についての情報をより詳しく、効果的に提供するなどの目的で教育委員会独自の広報紙が発行されることとなったのです。

創刊以来、その時々々の教育関連の出来事の特集記事を掲載するほか、シリーズ記事として、各学校や公民館などの「施設紹介」、昔めぐりかわごえ・むかしのあそびなどを紹介した「みんなのコーナー」などがありました。その中でも特に川越の文化財を紹介する「文化財シリーズ」、Q&A形式の「教育相談Q&A」は創刊当初から続く長寿シリーズです。